

モザンビーク時事情報（2015年8月）

1. 野党レナモと政府との和平交渉の決裂

昨年9月に合意された野党レナモとニュシ政権との和平交渉に進展がなく、Joaquim Chissano 国際会議場で続いていた交渉が停止した。これを受けて、ニュシ大統領は、野党レナモ党首のドラカマと大統領との会合を提案し、招待状を送付したが、野党レナモは、会合アジェンダ（和平）は既に議論尽くしたものであり、また、昨年9月の合意において進展がないことから、ニュシ大統領との会合を拒否した。ドラカマ党首は、8月31日の週から、ザンベジア州の郡において兵舎を設置し、独自の統治を開始すると宣言している。政府は、再度、ニュシ大統領との会合をレナモに呼び掛けている。

2. 国営炭化水素公社（ENH）のトップ交代

ニュシ大統領は、国営炭化水素公社（ENH）と国家石油院（INP）の新総裁人事を発表した。ENHの新総裁として、産業貿易省前副大臣の Omar Mithá が任命された。Mithá氏は、エドワルドモンドラーネ大学（UEM）経済学部を卒業後、UEMで財務数学、経営学、投資プロジェクト分析において教鞭を取り、2015年1月には、産業貿易省副大臣に任命されていた。

また、ニュシ大統領は、INP新総裁として、INPの探査局長であった Carlos Zacarias を任命した。INP新総裁任命の2週間前には、INPが公示していた炭化水素探査の15ブロックの入札が終了していた。入札には、元ゲブーザ大統領が株主である Tata Mocambique と元ゲブーザ大統領の息子が経営する企業（Msumbiji）も参加していた。

ENH元総裁の Nelson Ocuane氏は、2007年から総裁として任命されており、INP元総裁の Arenio Mabote氏は、2004年から総裁の地位を維持していた。



3. モザンビーク電力公社（EDM）の総裁交代

8月25日に開催された閣僚会議にて、モザンビーク電力公社（EDM）の新総裁として、Mateus Magala氏の任命が承認された。Magala新総裁は、機械エンジニアの学士を有し、交通の経済経営学、計量経済、行政学などで3つの修士号を取得し、経済学での博士号を取得している。Magala新総裁の前職は、ジンバブエ国のアフリカ開発銀行（AfDB）代表であった。EDMの前総裁であった Gildo Sibumbe氏は、昨年10月の任命から10か月余りで交代

となった。同日、郵政公社の新総裁人事も発表され、Vlademar Sergio Jessen 氏が任命された。Sergio Jessen 新総裁は、国際関係外交学で学士を有し、経済経営及び公共財政学で修士号を取得している。Sesrgioi Jessen 氏の前職は、郵政公社の財務行政人事部局長であった。

EDM 新総裁の任命においては、エネルギー省内の水力発電事業実施技術ユニット (Technical Unit of Implementation of Hydropower Project: UTIP) の再活性化も言及された。UTIP の事業は、カホラバッサ北岸水力発電事業、ムパンダ・ンクワ水力発電事業、テテマプト間送電線事業等が含まれる。エネルギー省の Pedro Couto 大臣は、国家 5 カ年計画の期間中に、発電と送電の戦略的なプロジェクトを実施する必要があると述べ、これまで頓挫していたプロジェクトを復活させるためにも、UTIP の再活性化が緊急課題であると述べた。また、EDM の Carlos Yum 理事は、計画プロジェクト局長に任命された。EDM 新総裁の任命式において、ロザリオ首相は、3 か月以内に国家 5 カ年計画に基づいたエネルギー開発戦略を作成する必要があると述べ、プロセス及び調達における透明性を指摘した。

公社・政府機関の人事交代は、他にも国家災害研究院 (INGC) の新総裁の任命 (Joao Osvaldo Machatine) や警視庁 (PRM) における 11 将官と 93 士官の罷免及び警視副総監の任命 (Jose Weng San) と続いている。政府は、これまで汚職が多いと言われていた移民局を移民国家サービス (National Service of Immigration) に転換し、Arsenia Massingue 氏を移民国家サービスの総裁に任命した。

3. マプト港に新しい走行クレーンの設置

マプト港湾管理会社 (MPDC) は、港湾の効率化と生産性向上のため、スイスの Liebherr から 2 台の走行クレーンを購入したと発表した。新たに購入した LHN550 クレーンは、300%の効率性向上が期待されており、例えば、クロム鉄鉱の運搬において、ハンディーマックス船 (4 万トン) の運搬がこれまでの 3.5 日間から 2.5~1 日間に短縮されることが期待されている。2 台の走行クレーンは、8 月 16 日にマプト港に到着し、設置及び初期テストを経て、操業されることになる。他にも、クロム鉄鉱の倉庫能力が 1 百万トン/年に増加する新しい投資等を行っている。



ナカラ港に設置された走行クレーン

4. ナカラ水供給

水セクターの公社である FIPAG (Fundo de Abastecimento e Patrimoniode Agua) は、今年 9 月に、ナカラ市の水不足を解消するため、海水淡水化に関する F/S を開始する。同じく、FIPAG は、ナカラ地域の水供給強化のため、Nihaquehi 川のダム建設の F/S を開始するための資金を検討している。これら代替案は、ナカラ市周辺の水不足を解消することを目的としている。

新たに建設されている石炭ターミナル港がある Nacala-a Velha 郡には、2013 年 6 月に完成したナカラダムから水が供給されている。ナカラダムの建設により水供給問題が解決されることが期待されていたが、最近の人口増加と経済活動の増加のため、水不足が続いており、市民は、水販売所から 20 リットルの水を 10~15 メティカルで購入している。

5. セナ鉄道事業

テテ州モアティゼからベイラ港までのセナ鉄道の拡張事業が遅延している。セナ鉄道拡張事業は、2013 年から開始しており、現在の 6.5 百万トン/年の石炭輸送力から 20 百万トン/

年に増加することが期待されており、今年第 1 四半期に終了する予定であった。リハビリ事業費 163 百万ユーロを投じた本事業は、現在、75%が達成されている。

6. ガス開発の進捗状況

AREA 1 のコンセッションを有している Anadarko は、モザンビークの天然ガス事業の 90%のオペレーターを確保したと発表し、LNG 建設のためのモザンビーク政府の承認を待っていると述べた。天然ガス価格が低迷して他の投資家が巨大投資に足踏みをしている中、Anadarko は、15 億ドルの LNG 建設投資を進めている。

7. ナカラ港の緊急リハビリ

2014 年 2 月から開始されていたナカラ港の緊急リハビリは、今年 9 月に終了することが見込まれている。五洋建設によってリハビリされている本事業は、現在、約 92%のリハビリが完成している。ナカラ港の緊急リハビリ事業は、24.8 百万ドルの資金を投じて、コンテナ埠頭、燃料埠頭、コンテナ倉庫をリハビリしている。

ナカラ港のリハビリ・拡張事業の第 2 フェーズは、来年 2 月から開始される予定であり、26 か月間を予定している。2015 年 10 月には、第 2 フェーズの入札が予定されており、約 400 百万ドルの資金が投じられる。